

学長のコラム

第 4 回保健科学国際シンポジウム (タイ・コンケン) に参加して (2/2)

先月に続いてシンポジウム (11 月 6 日～8 日) の報告第 2 弾である。今回は学術以外について思い浮かんだことを書いてみたい。
ナイトマーケットと若者の活気：コンケン大学スタッフの皆さんに案内して貰い、学会 2 日目の夕方にコンケン大学を經由して、ナイトマーケットに向かった。コンケン大学は 1964 年に設立されたタイ東北部最大の国立総合大学で、17 学部を擁し学生数約 37,000 人のマンモス大学である。大学ランキングもタイ国内で 3～5 位の位置を保っている。次に向かったナイトマーケットにはスパイシーなローカルフードが並び、どのテーブルも若者で満席で、タイという国の活気を感じた。

チャオプラー川：学会最終日にバンコクに移動し 1 泊した。翌日の福岡便は 25 時 (つまり午前 1 時) 発なので、それまでバンコク市内を観光することにした。チャオプラー川下流の乗船場からクルーズ船に乗って 20 分ほど川を遡り、三大寺院と王宮を訪れた。私が中学生の頃は、この川を「メナム川」と教わったが、近年は「チャオプラー川」と呼ばれている。現地語では「メナーン・チャオプラー」、「メナム」は単に「川」という意味らしい。誰が間違ったのか? 「チャオプラー川」はバンコクの動脈である。陸の大渋滞を尻目に、水上バスやクルーズ船が行き交っている。タイ北部で支流を集め、チャオプラー川として古都アユタヤを經由してバンコク中心部に流れ込む大河である。アユタヤとバンコクは約 100km 離れているが標高差はわずか 2m しかなく、一見、川の流れば止まっている様に見える。2011 年のタイ大洪水で数ヶ月も水が引かなかったのも頷ける。

王様の国タイ：タイでは街のあちこちに国王の写真が掲げられており、王室を敬う気持ちが強い。ユル・プリンナー主演の「王様と私」(1956 年) というミュージカル映画をご覧になった方もいらっしゃると思うが、この映画 (1990 年にリメイクされた映画「アンナと王様」も含めて) は、タイでは上映禁止になっている。タイ近代化の礎を築いたラーマ 4 世と子ども達の家庭教師として招かれた英国人女性の物語であるが、史実とはかけ離れた内容で、王室を侮辱するエピソードが含まれているというのがその理由らしい。王室への敬意はタイ国民に深く浸透しており仏教精神と相まって、治安の良さや友好的なお国柄に反映されている。深夜便を待つ間、こんなことを思いながら幸せな気持ちで帰途についた。



コンケンのナイトマーケット



チャオプラー川クルーズ



現国王ラーマ 10 世の写真

12 月・1 月・2 月の主な行事予定

12/26 (木)	仕事納め
1/6 (月)	仕事始め、P&P 継続研究テーマ募集 (～1/24)
1/9 (木)	SD 研修会
1/18 (土)	センター試験 (～1/19)
1/22 (水)	LGBT 講演会
1/23 (木)	心と体の健康づくり研修会 ハラスメント防止研修会
2/4 (火)	一般入試
2/5 (水)	修了判定会議 (助産)
2/6 (木)	※一般入試 (予備日)
2/7 (金)	看護学科キャリア教育セミナー (九州外施設)
2/10 (月)	看護学科キャリア教育セミナー (九州内施設)
2/14 (金)	臨地実習連絡会議 (医学検査学科)
2/17 (月)	卒業認定学科会議
2/18 (火)	卒業認定会議 (教授会)
2/21 (金)	令和元年度地域包括連携医療教育研究センター活動報告会
2/28 (金)	臨地実習合同会議 (看護学科)
2/29 (土)	大学院一般選抜、社会人選抜 (Ⅱ期) 入試 認定看護師教育課程 (脳卒中看護)・特定行為研修 入試

※12/27 (金) は 11/16 推薦入試の振替休日です。12/29 (日)～1/3 (金) が年末年始休暇となります。

第 29 回ふれあいフェスタ in ほくぶ

10 月 26 日 (土)～27 日 (日) に「第 29 回ふれあいフェスタ in ほくぶ」に参加しました。北部武道館で、地域の方々を対象とした健康チェック (医学検査学科担当：体成分測定、骨密度測定、血管年齢測定、看護学科担当：血圧測定、身長・体重測定、腹囲測定) を行い、2 日間で 163 名の方が測定を受けられました。また、26 日 (土) には、メイン会場の北部体育館で行われた「情熱ライブステージ」に本学と崇城大学の吹奏楽部が合同で参加しました。

(文責：地域連携委員会事務局)



フードパルフェスタ 2019

11 月 3 日 (日)～4 日 (祝・月) に例年同様、株式会社フードパル熊本主催の「フードパルフェスタ 2019」に参加しました。リハビリテーション学科の理学療法専攻と生活機能療法専攻の教員及び学生が身長・体重、BMI、握力、脚力 (台からの立ち上がり)、柔軟性 (座って前屈)、敏捷性 (棒落下テスト) を行い、2 日間で 243 名の方が測定を受けられました。測定後のアドバイスを皆さん熱心に聞かれており、中には、帰り際に楽しかったと声をかけてくださる方もいらっしゃいました。

(文責：地域連携委員会事務局)



クリスマス イルミネーション点灯

今年も学友会によってクリスマスイルミネーションが灯されました。12月2日(月)に点灯式が催され、毎年好評のハンドベル演奏も行われました。今年は学友会の1年生が『きよよこの夜』と『ジングルベル』の2曲を披露。冬の寒空の下でしたが、会場は温かな雰囲気になりました。その後、キャンパススクエアと3号館入口前にイルミネーションが点灯されると歓声と拍手が起こりました。イルミネーションの装飾は12月25日(水)まで(18時~21時)。是非ご覧ください！(文責：学務課)



アクティブラーニングワークショップ

令和元年度アクティブラーニングワークショップを10月8日(火)に開催しました。

今回は今後行うべきであるOSCEの取り組みについて、実際に行われている言語聴覚学専攻の松原先生にお願いしました。先生にはOSCEの基本的事項から言語聴覚学専攻学生評価実習前事例についての実技試験、試験時間、評価法などの具体的な話を頂きました。その中で、OSCE後の学生の変化、特に学習時間、友人との協力、教員とのコンタクトなどが大幅に増加し、過半数の学生が実習への不安が軽減したことなどが説明されました。模擬患者などの問題もありますが、OSCEが学生教育にも重要であることが十分理解できるワークショップでありました。

基礎的なことから具体的方法までを、解り易く・詳しく説明して頂きました松原先生、参加して頂きました48名の教職員の皆様に御礼申し上げます。

本学でもOSCEが導入されます。今回のワークショップを今後の教育に活かして頂ければ幸いです。(文責：教育方法改革委員長 檜原 真二)

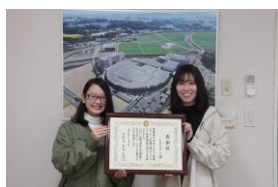


-Lovers- 令和元年度熊本市青少年善行表彰を受ける！！

11月12日、本学のボランティアサークル「Lovers」が令和元年度熊本市青少年善行表彰を受け、部員2名が表彰式に出席しました。この表彰制度は今年で38回目、熊本市が昭和56年度から模範となる善行をした青少年を表彰するもので、善行表彰の対象は①人命救助や事故防止、消火活動などの「一時的な善行」を行った個人や団体、②3年間以上、身体の不自由な方のお世話や、道路・公園等の環境美化、国・県・市指定の自然・文化財保護などの「継続的な善行」を行っている個人や団体です。

医療ボランティアサークル「Lovers」は、2007年に難病患者さんとその家族の支援、難病や脳腫瘍、心臓病、運動・発達障害等の病気を抱える子どもたちの支援を始め、今年で活動13年目を迎えています。表彰式に参加してくれたのは、医学検査学科の2年の狩野葵さんと福田有香さんです。この表彰は、サークル部員にとって今後の活動の糧になるものとなりました。

最後に日頃ボランティア活動でお世話になっている病院・施設・団体や、2名が表彰式に出席できるよう配慮していただいた大学関係者に感謝致します。(文責：サークル顧問 看護学科 中村京子)



防災訓練

11月20日(水)に本年度の防災訓練を実施しました。

本年度は、11時40分に地震が発生。その後施設内で火災発生後に初期消火が失敗する想定の下で、学内にいる教職員と学生が参加する全学規模の訓練となりました。

特に今回は、出火の場所や時刻を事前予告することなく訓練を行いました。防災アナウンスで急遽設定された1号館事務エリア給湯室出火に対して、担当地区隊消防係が本部隊初期消火係の支援を受けながら、「火事だ」と大きな声で叫び、消火器のみならず屋外消火栓ホースを伸ばして消火活動を実施されました。急な不測の出火にも、適切な防災活動が展開されたことがとても印象的でした。

訓練は12時10分に無事終了しましたが、トランシーバーなどを活用した情報共有の在り方など改善すべき点も確認されました。

今回の防災訓練を踏まえて、更なる本学の防火防災対応の改善に活かしていきたいと思えます。(文責：総務課)



旧アリーナ・レストラン改修工事安全祈願祭

12月3日(火)「旧アリーナ・レストラン改修工事安全祈願祭」の神事が旧アリーナで執り行われました。(撮影：企画課)



私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科 言語聴覚学専攻の兒玉 成博 講師に投稿していただきました。

世は空前の卓球ブームである。張本智和選手や伊藤美誠選手の活躍により、卓球人口は明らかに急激に増加している。地方の卓球大会をみても、小学生のジュニア選手が多数出場しており、中学生から部活を始めた選手よりも小学生の方が強い。

果たして卓球は、現在どれくらいモテるスポーツなのだろうか？ ネット検索してみると、なんと！ たまーに10位以内にランクされている。これは前代未聞である。

私が卓球のラケットを握ったのは中学1年生である。当時、卓球というスポーツのイメージは、「根暗」「地味」「冴えない男子が多い」と三拍子揃っており、いくら背伸びしてもサッカーで爽やかに汗を流している男子には到底及ばなかった。時代は常に流れており、今は、そのようなモテない期は終わったのである。生まれてくる時代、間違えた。

